

「ヒト幹細胞の応用」で博士号を取得した 2人の研究者を迎え、ヒト幹細胞研究を推進

セントラル・コーポレーション(本社岡山県岡山市)は1980年の創業以来、在庫バルクの小分けではなく、ゼロからのオリジナルブランドで「わずか100個から化粧品をつくる」小ロット製造のパイオニアとして知られる。独立を目指す起業家を支援し続けて今年で41年目を迎え、2011年にはこうした取り組みが評価され、日本文化振興会から社会文化功労賞が授与された。同社では小ロット製造による化粧品OEMと並行し、創業から一貫してエイジングケア化粧品研究にも取り組んでいる。笹山博史社長に、今展示会の見どころやポイントについて話を伺った。

18年・19年とOEM受注件数が激増 「ヒト幹細胞」の研究をさらに加速

——今回の出展内容をお聞かせください。
笹山 化粧品開発では「必ず売れる」をキーワードに、差別化した化粧品をわずか100個からでもOEM製造できることを強くアピールしていく。

当社のブースでは、iPS細胞やES細胞の話題で一躍有名になった「幹細胞(ヒト)」配合の化粧品OEMを提案する。今現在、「幹細胞化粧品」の時代が間違いなく到来している。2019年のOEM受注件数は、2018年に比べて激増している。EGF化粧品



笹山社長

学を応用した幹細胞を用いたアゴの骨の再生に関する研究を専門としている。2人目は、歯の噛み合わせによる顔の表情筋に

関するアンチエイジング研究を専門に行っている。2018年10月24日にはネパールで、幹細胞によるあごの骨の再生に関する研究の成果を発表した。2019年4月20日には、国内の日本歯科理工学会でも学術発表を行っている。その博士によると、幹細胞培養液は、幹細胞を培養する時の「熟成度」によって成分濃度が極端に変わることが大きな問題で、注意が必要とのことだ。

差別化した幹細胞化粧品を 100個から独自処方で提案

——「幹細胞」を謳う化粧品が増えてきていますが、選び方でポイントとなることはありませんか。
笹山 最も大切なポイントが、「ヒト由来」かどうか。人には「ヒトのレセプター(受容体、鍵穴)」があり、ヒト由来の幹細胞化粧品は「ヒトのリガンド(鍵)」を持つ。植物エキスと同様、保護化粧品としての効



が、二次加工を行っていない「生のヒト幹細胞」であるということだ。抽出された液体原料を加工せず使用して

果は十分に期待できるだろう。

——ヒト由来の幹細胞素材についても各社が供給していますが、その選び方についても聞きか

せください。
笹山 有効成分の量の違いはしっかりとチェックしておくべきで、当社が「日本総輸入元」として扱っている幹細胞培養

エキ스는、国内で流通している一般的なヒト幹細胞化粧品素材との成分比較を行っている。

その結果、当社原料には、主成分であるフィブロネクチンやコラーゲンといった、細胞外マトリックス(ECM)構成成分が、極めて豊富に含有されることがわかった。

コラーゲンは3.6倍、フィブロネクチンに至っては25倍以上であることが確認している。

もう一つ、当社が扱う原料の特徴といえるの

